

# 英語メディア報道におけるサッカーのクリシェ (2)

## Football Cliché in the English News Media (2)

田 中 芳 文  
(地域文化学科)

キーワード：クリシェ，サッカー，英語メディア，ジャーゴン

### 1. Prolog — away on a cold night at Stoke

イングランドのプロサッカーリーグ EFL Championship の強豪リーズ・ユナイテッド FC が，同リーグの下位に低迷するストーク・シティ FC と対戦する直前の BBC の解説に，次のような英文がある。敵地の(away)ストークの寒い水曜日の夜にリーズが実力を発揮できるかどうか勝敗のポイントだという。

I suppose it depends whether Leeds can do it **away on a cold Wednesday night at Stoke**.  
-BBC, 25 October 2023

この用例に出てくる **away on a cold Wednesday night at Stoke** は，サッカーでよく使われるクリシェ(cliché)である。ストーク・シティ FC は，華麗なパスワークではなく，フィジカルの強さで知られるチームである。また，その本拠地は寒く，雨が多く，風が強いなど過酷なコンディションで悪名が高い。したがって，そこへ乗り込んで試合をする選手やチームにとっては試練で，その実力が試されるわけである(LETF)。そのような環境でよいプレーができれば，その選手やチームは超一流とは言えないことを表すのに使われる(*Urban Dictionary*)。2010年に，サッカー解説者のアンディ・グレイ(Andy Gray)が，スペインの FC バルセロナでプレーするリオネル・メッシ(Lionel Messi)のような選手が，英国プレミアリーグの過酷な環境でプレーできるかどうかについてコメントしたのが起源。**wet Wednesday night in Stoke** などの形もある(Williams 2018)。

サッカーに特有の英語表現，つまり，サッカーのジャーゴン(jargon)については，田中(2023a)や田中(2024)で検討した。本稿では，田中(2023b)に引き続き，英語メディア報道に見られるサッカーのクリシェを取り上げる。

## 2. サッカーのクリシェ

### 1) banana skin

**banana skin** は、重要な人物、特に政治家がひどい間違いを犯すとか問題に対処できず、恥ずかしい思いをしている、あるいは愚かに見える状況を指すイディオムである (*LID*)。英和辞典には「《英口》(政治家・著名人などの) つまづきのもと、へま、失態」(『コアレックス英和 3』) のような説明がある。

サッカーでは、カップ戦の組み合わせが決まり、実力で上回るチームが弱いチームに取りこぼす可能性があることを表す場合などに使われる隠喩 (*metaphor*) であり、クリシェである。形容詞 *potential* を伴うこともある (Leigh and Woodhouse 2006, Bendelow and Kidd 2015)。

“It was a **banana skin** for us as we’re on a good run and they were on not such a good run,” Warne told BBC Sheffield. -BBC, 8 December 2021

I thought this was a **potential banana skin** for Arsenal, especially after recent performances. -BBC, 8 May 2023

### 2) down to the bare bones

**the bare bones** について、ほとんどの英和辞典は「骨子、要点」としている。『リーダーズ英和 3』はさらに「限界、極限」の意味を加えて、「cut [strip, etc.] ... (down) to *the bare bones* 〈情報など〉余計な部分を削って骨子だけにする; 〈予算・人員など〉ぎりぎりまで削減する」のような用例を示す。

サッカーでは、負傷による離脱者が続出し、極端に苦しい状態のチーム事情を表すのに使われるクリシェである (Bendelow and Kidd 2015)。Leigh and Woodhouse (2006) は「お決まりのクリシェ」(*obligatory cliché*) と表現し、Williams (2018) は「ディッケンズの小説の暗く荒涼とした情景」(*images of Dickensian bleakness*) を連想させるものだとする。

Edwards says the team are “**down to the bare bones** but there’s quite a lot of teams in a similar position at the moment”. -BBC, 3 November 2023

### 3) give 110%

**110%** は、サッカーファンや選手が好むクリシェである。動詞の **give** を伴って、**give 110%** の形で使われることが多い (LETF)。**110%** はすべての選手や監督に期待される数字で、余分な 10% に含まれるのは、居残りでシュート練習をする、激しいタックル (*full blooded tackle*) をする、ピッチ上にすべてを出

し尽くす(leave everything on the pitch), ペナルティーキック戦の最初の 5 人に志願するなど(Bendelow and Kidd 2015)。数字の部分には 200, あるいは 1000 が入ることさえあるという(Leigh and Woodhouse 2006)。

He played every game like it was his last and **gave 110%** every time he wore the blue shirt. -BBC, 16 February 2023

#### 4) headless chicken

**headless chicken** は、大慌ての、軽率な、そしてしばしば役に立たない活動を意味する。特に **running around like a headless chicken** などの形で使われる口語的な語で、初出年は 1870 年である(OED)。PDEI は **run around like a headless chicken**, ODI は **running (or rushing) about like a headless chicken** で収録するイディオムである。

英米の違いに関して、CCID は **be running around like a headless chicken** はイギリス英語、**be running around like a chicken with its head cut off** は主にアメリカ英語とし、アメリカ系のイディオム辞典 Ammer (2013) や Spears (2000) は後者のみを収録している。佐藤 (2018) はこれらに倣い、前者をイギリス英語、後者をアメリカ英語としているが、安藤 (2011) はなぜか後者をイギリス英語としている。コーパスで見ると、COCA では前者が 3 例、後者が 15 例、BNC ではいずれの用例も見当たらない。

サッカーでは、選手、あるいはチームが好き勝手に何のプランもなく走り回っている様子を表すクリシェである(LETF)。

Christie **runs around like a headless chicken** and he's keeping Brooks out? -BBC, 28 August 2023

#### 5) "It's the hope that kills you."

"**It's the hope that kills you.**" は、サポーターは、期待したり希望を持ったりしないほうがよいということを表すクリシェである。重要な試合、例えばプレミアリーグ残留をかけたシーズン最終戦前に、サポーターは応援するチームが降格(relegation)しないことを望むが、その望みは無残にも打ち砕かれることがある(LETF)。そのような場合には、分裂文(cleft sentence)を使って、文字通りは「あなたたちを殺すのはその希望だ」と言う。

"They say **it's the hope that kills you**, but if we keep playing like that, even if we go down but playing like that, we aren't going to feel as

deflated as we would have been under Nathan Jones.

-BBC, 20 March 2023

## 6) leave everything on the pitch

**leave everything on the pitch** は、チームや選手が試合で「ベストを尽くす」ということを表すクリシェである。*everything* とはチーム全体の努力や個々の選手のエネルギーすべてを指す(LETF)。文字通りは「すべてをピッチ上に残す」である。

“Whilst I know that I am still young and will continue to develop, I can promise the United fans that I will **leave everything on the pitch** every time I pull on the red shirt. I’ll always be thankful to Feyenoord for all they have given to me and my family.

-BBC, 5 July 2022

## 7) miss a sitter

**sitter** は、スポーツで、簡単な捕球(catch)、打撃(stroke)、あるいはシュート(shot)を指す語である。初出年は 1898 年で、**miss a sitter** の形で使われることが多い(*OED*)。

サッカーでは、ひどい失敗(glaring miss)をした場合に使われる「典型的なクリシェ」(“classic cliché”)で、*absolute* や *complete* のような形容詞を伴うことが多い。最初はクリケットでキャッチを失敗した場合に使われていた。サッカーでは、ストライカーについて使われ、ゴールキーパーについて使われることはない。「簡単な標的」の意味の *sitting duck* からであると思われる(Leigh and Woodhouse 2006)。

Harry Wilson scored a brilliant equaliser then **missed a sitter** for Fulham as they drew at struggling Barnsley.

-BBC, 12 March 2022

## 8) run one’s socks off

**one’s socks off** について、『リーダーズ英和 3』は、「熱心に、懸命に」として、work [run, play, etc.] *one’s socks off* の用例を示している。イディオム辞典では、*ODI* が **your socks off** の形で収録して、「かなり精力的に熱心に何かをする」(do something with great energy and enthusiasm)の意味のインフォーマルな表現であるとし、用例では動詞 *work* を使った “~he was working his socks off~” があげられている。安藤 (2011) が **work [laugh, run] one’s socks off** のように動詞 *laugh* を示しながら「((口)) 一生懸命働く」という訳

語のみを示しているのは不可解である。動詞が *laugh* の場合は「よく笑う」(laugh a lot)であり，他に使われる動詞には *act, dance, play, scream* などもある(CCID, LID)。

サッカーでは，**run one's socks off** は，チーム，あるいは個々の選手が一生懸命プレーすることを表すクリシェである。動詞は，*run* の代わりに *work* もしばしば使われる(LETF)。

“My aim is to score goals, that’s my job. But the least you can do on the pitch is **run your socks off**.  
-BBC, 21 July 2023

He thanked Newcastle United fans for their messages of support and promised to **work his “socks off”** after completing the deadline-day move.  
-BBC, 2 February 2021

## 9) spare A's blushes

名詞の **blush** には「顔を赤らめること，赤面」の意味があり，**spare A's blushes** は「《英・くだけて》A (人) に恥をかかせない，A の面目を保つ」(『ウィズダム英和 4』) の意味で使われるイディオムである。

サッカーでは，明らかに勝つであろうと思われていたチームが大苦戦した結果，何とか最後には敗戦を免れた場合に使われるクリシェである(LETF)。

First half was just like both teams were in the Championship. The offsidess **spared our blushes** and the triple substitution showed Hecky’s frustration.  
-BBC, 14 August 2023

## 10) sweet strike

スポーツで使われる名詞の **strike** について，ほとんどの英和辞典は，野球とボーリングの場合をあげている。「(得点となった)キック」(『リーダーズ英和 3』)があるが，競技名への言及はない。「《米》〔球技〕完璧な送球[パス]」(『ジーニアス英和 6』)も競技名は不明で，アメリカ英語に限定している。*OED* は，野球，クリケット，アメリカンフットボールで使われる意味をあげている。サッカーで「シュート」(shot)を指す語である(Room 2010)。

形容詞 **sweet** は，サッカーでは主に *volley* と共に使われるが，*shot* や *pass* と共に使われることもある(Leigh and Woodhouse 2006)。

**sweet strike** は，素晴らしいタイミングのボレーシュート，止めることができない強烈なシュート，あるいは見事なフリーキックを指すクリシェである

(LETF)。

What a **sweet strike** from Doucoure. Oh he hit that. It travelled like a rocket and gave the keeper no chance. -BBC, 28 May 2023

### 11) take the game by the scruff of the neck

*scruff*は「首筋、襟首」の意味で、**take ~ by the scruff of the neck**で「～の襟首をつかむ」の用例が英和辞典にはある。しかし、*LID*には「困難な問題に対処する、あるいは組織を再構成するために断固とした行動を起こす」(“to take determined action in order to deal with a difficult problem or reorganize a system”)の意味が収録されている。

サッカーでは、「試合の運命を変える、試合をコントロールする、試合を支配する、試合の流れを変える」といった意味で使われるクリシェである。特に、試合に負けそうな状況やチームの調子がよくない状況で、ある選手が激しいタックル、得点をあげる、あるいはアシストすることによって試合の流れを変える場合に使われる(LETF)。

“He just completely **took the game by the scruff of the neck** and won it for us. It was like the Kaoru Mitoma show. He was unstoppable,” says Burgess, an English defender who previously played for Middlesbrough and Portsmouth. -BBC, 3 February 2023

### 12) “The table doesn’t lie.”

**table**は、ライバル同士の順位を表すリストのことで、**league table**とも呼ばれる。初出年は1896年である(*OED*)。

“**The table doesn’t lie.**”は、そのチームの順位は、そのチームの能力、実力を表しているという意味のクリシェである(LETF)。文字通りは、「順位は嘘をつかない」ということ。

Tottenham’s all-time top scorer Kane said: “**The table doesn’t lie**, where we are doesn’t lie. We’ve got some fantastic players and moments but as a team we aren’t playing good enough collectively. -BBC, 1 May 2023

### 13) too good to go down

**too good to go down**は、サッカーのビッグクラブが、たとえシーズン当初に不調で勝利から遠ざかっている場合でも、決して降格(relegation)すること

はないだろうということを表すクリシェである。逆に、どんな強いチームでも降格の可能性があることを指して“**No team is too big to go down.**”と言う(LETF, Bendelow and Kidd 2015)。

West Ham striker Michail Antonio insists his side is “**too good to go down**” despite a difficult afternoon at Brighton last Saturday.

-BBC, 9 March 2023

#### 14) under the microscope

「顕微鏡」の意味の *microscope* が比喩的に使われると、**under the microscope** で、「詳細に調査されて」の意味になる。このイディオムの初出例は1765年である。**put ~ under the microscope** の形でも使われる(OED)。

サッカーでは、状態の悪い選手、監督、あるいはチームを詳しく調べる場合に使われるクリシェである(LETF)。

The less we **put them under the microscope**, the better they’ll do.

-BBC, 24 November 2022

#### 15) walk the ball into the net

動詞の *walk* には、他動詞で使われる場合、「歩くように動かす」の意味がある(『リーダーズ英和3』)。

サッカーでは、**walk the ball into the net** というクリシェがある。長い距離からの強烈なシュートやフリーキックからの曲線を描く芸術的なシュートではなく、ショートパスを多用して相手ゴールまで迫ってゴールを決める様子を指して使われる表現である。否定的な意味合い(negative connotation)を含むこともあるが、それは必ずしもゴールに結びつかないため、得点を望むファンからは批判されるからである(LETF)。

A problem we have is that at times it appears that we’re trying to **walk the ball into the net**. It’s frustrating to watch, when instead of a cross or shot we play the ball back and start again.

-BBC, 8 August 2022

#### 16) “You couldn’t write a script like this.”

“**You couldn’t write a script like this.**” は、スポーツコメンテーターがよく使うクリシェである(Susie Dent 2017)。試合の結末が思いもよらないものであった場合に使われる。文字通りは「こんな台本は誰にも書けない」で、サッ

カーでも古くから使われる表現である。<sup>1), 2)</sup> コメンテーターだけでなく、選手や監督も類似の表現を使う。

(選手)

Martin Dubravka has said “**you couldn’t write this script**” after Nick Pope’s red card against Liverpool ruled Newcastle’s number one keeper out of Sunday’s Carabao Cup final. -BBC, 20 February 2023

(監督)

“We said before the game we’d do everything possible. The players were fantastic. **You can’t write a script better than this**. We’re all very proud. We toasted inside to Jimmy [Bell] for this one. -BBC, 5 May 2022

### 3. Epilog — cultured left foot

イングランドのレスター・シティ FC(Leicester FC)のブレンダン・ロジャーズ(Brendan Rodgers)監督(当時)が、自身が率いるチームのディフェンダーのキアナン・デューズバリー＝ホール(Kiernan Dewsbury-Hall)を評して次のように述べたことがあった。

“The team was missing intensity and pressure and he has brought that. He typifies everything we want to be. He has good industry, a **cultured left foot** and he’s very honest.” -BBC, 10 April 2022

形容詞の **cultured** について、英和辞典に「(人が)教養のある、洗練された、上品な」(『コンパスローズ英和』)の意味は収録されているが、*OED* は、スポーツの選手、あるいはそのプレースタイルが「洗練された」の意味で使われることを明確に示している。イギリス英語で、初出年は 1933 年である(*OED*)。

サッカーでは、技術的に才能がある選手は、しばしば **cultured left foot** を持っていると言われる。パスやシュートが非常に正確で、しばしばスピンをかけることもできる。典型的には左利きの選手である(Dent 2017)。圧倒的に数が多い利き足が右足の選手は、右足よりも左足のほうが技術的に弱いのが普通であるところからの表現で、**cultured right foot** という表現はない(Bendelow and Kidd 2015, Dent 2017)。クリシェであり、**cultured** の代わりに **educated** を使って **educated left foot** と呼ぶ場合もあるという(Hurrey 2016)。

## 注

本稿で引用した用例は、すべて BBC のウェブサイト(<https://www.bbc.com/sport/football>)からで、用例中の太字は田中による。最終アクセス日は、2024年3月1日である。

- 1) <https://www.bubbleactive.com/blog-news/football-cliches>
- 2) <https://www.dailystar.co.uk/sport/football/hannes-halldorsson-messi-england-iceland-25241547>

## 参考文献

*CCID = Collins COBUILD Idioms Dictionary*. 4<sup>th</sup> edition. Glasgow: HarperCollins. 2012.

*LID = Longman Idioms Dictionary*. Harlow, Essex: Addison Wesley Longman. 1998.

*ODI = Oxford Dictionary of Idioms*. 4<sup>th</sup> edition. Oxford: Oxford University Press. 2020.

*OED = The Oxford English Dictionary Online*. Oxford: Oxford University Press. 2023. [<https://www.oed.com/>]

*PDEI = The Penguin Dictionary of English Idioms*. 2<sup>nd</sup> edition. London: Penguin Books. 2001.

*Urban Dictionary = Urban Dictionary Online*. 1999-2024. (<https://www.urbandictionary.com/>)

『ウィズダム英和 4』 = 『ウィズダム英和辞典』 第 4 版. 三省堂. 2019.

『コアレックス英和 3』 = 『コアレックス英和辞典』 第 3 版. 旺文社. 2018.

『コンパスローズ英和』 = 『コンパスローズ英和辞典』 研究社. 2018.

『ジーニアス英和 6』 = 『ジーニアス英和辞典』 第 6 版. 大修館書店. 2023.

『リーダーズ英和 3』 = 『リーダーズ英和辞典』 第 3 版. 研究社. 2012.

Ammer, Christine (2013), *The American Heritage Dictionary of Idioms*. 2<sup>nd</sup> edition. Boston and New York: Houghton Mifflin.

Bendelow, Ian and Jamie Kidd (2015), *Bendelow and Kidd's Dictionary of Football*. Oakamoor, Staffordshire: Oakamoor Publishing.

Dent, Susie (2017), *Dent's Modern Tribes: The Secret Languages of Britain*. London: John Murray.

Hurrey, Adam (2016), *Football Clichés*. London: Headline Publishing Group.

- Leigh, John and David Woodhouse (2006), *Football Lexicon*. London: Faber and Faber.
- Pickering, David (1998), *The Cassell Soccer Companion*. Revised edition. London: Cassell.
- Simpson, Paul and Uli Hesse (2013), *Who Invented the Stepover? And Other Crucial Football Conundrums*. London: Profile Books Ltd.
- Spears, Richard A. (2000), *NTC's American Idioms Dictionary*. 3<sup>rd</sup> edition. Lincolnwood, Illinois: NTC Publishing Group.
- Williams, Tom (2018), *Do You Speak Football? A Glossary of Football Words and Phrases around the World*. London: Bloomsbury Sport. (堀口容子 訳 (2022), 『DO YOU SPEAK FOOTBALL? 世界のフットボール表現事典』イースト・プレス)

- 安藤貞雄(編) (2011), 『三省堂 英語イディオム・句動詞大辞典』三省堂.
- 佐藤尚孝 (編) (2018), 『詳説英語イディオム由来辞典』三省堂.
- 田中芳文 (2023a), 「The Beautiful Game の言語を探るー 英語メディア報道におけるサッカー・ジャーゴン」『島根県立大学松江キャンパス研究紀要』第 62 号, pp. 97-104.
- \_\_\_\_\_ (2023b), 「英語メディア報道におけるサッカーのクリシェ」『人間と文化』第 6 号, pp. 79-88.
- \_\_\_\_\_ (2024), 「サッカーの言語ーイギリス英語とアメリカ英語の語彙的差異」『島根県立大学松江キャンパス研究紀要』第 63 号, pp. 93-101.

### 参照サイト

LETF = Learning English Through Football (<https://languagecaster.com/>)

### Corpus

BNC = British National Corpus (<https://www.english-corpora.org/bnc/>)

COCA = Corpus of Contemporary American English (<https://www.english-corpora.org/coca/>)